

II 次の文章〔1〕～〔3〕を読み、(a)～(t)の問いに答えよ。

〔1〕 白河上皇が院政を始めると、南都・北嶺と呼ばれる大寺院がその主張を通すために実力行使に及ぶ A が頻発した。上皇はそのような事態に対応するため、院の御所に新たに北面の武士をおくとともに、九州での源義親の反乱を鎮定した B を重く用いた。鳥羽院政のもとでは、さらに B の子が、瀬戸内の海賊を鎮圧するとともに、所領管理などを通じて上皇の寵遇を得、政権のなかで重要な位置を占めるようになった。

鳥羽上皇の死後に生じた保元の乱は、C 上皇と後白河天皇という、天皇家内での兄弟の対立が発端であるが、それが宮廷内の紛争に終わらず、京都での合戦に発展した背景には、院政のもとで発展した武士の勢力があった。その3年後に起きた平治の乱では、後白河上皇の近臣である信西入道と藤原信頼との対立が発端となり、最終的には平清盛の働きが乱の帰趨を決した。その後の平家は、政権を大きく左右する存在となった。清盛は太政大臣となり、さらに娘の徳子を高倉天皇の中宮とすることに成功し、皇子の誕生と即位によって天皇の外祖父となった。やがて後白河法皇と対立した清盛は、法皇を幽閉して院政を停止するに至った。

(a) 下線部①に関連して、院政の説明として、もっとも適切なものを下から一つ選び、記号で答えよ。

- ㉔ 白河上皇以前にも天皇が退位して上皇となることがあったが、それはすべて中継ぎ的な性格をもつ女性の天皇であった。
- ㉕ 白河上皇以後、讓位した上皇（法皇）は、必ず院政を行うようになった。
- ㉖ 天皇が幼い場合でも上皇がその政務を代行することができるため、摂政はおかれなくなった。
- ㉗ 白河上皇のように、朝廷でもっとも強い政治権力を行使する存在を、治天の君と呼んだ。

(b) 下線部②に関連して、「南都・北嶺」の説明として、適切でないものを下から一つ選び、記号で答えよ。

- ㉔ 「南都」とは、大和に所在する藤原氏の氏寺を意味する。
- ㉕ 「南都」の僧兵は、石上神宮の神輿を担いで京に押し寄せた。
- ㉖ 「北嶺」とは、近江に所在する天台宗の寺院を意味する。
- ㉗ 「北嶺」の僧兵は、日吉神社の神輿を担いで京に押し寄せた。

(c) 空欄  にあてはまる、もっとも適切な語句を答えよ。

(d) 空欄  にあてはまる、もっとも適切な人名を答えよ。

(e) 下線部③の乱により武士の世となったと論じた、天台座主の著した歴史書を何というか。もっとも適切な書名を答えよ。

(f) 空欄  にあてはまる、もっとも適切な上皇名を答えよ。

(g) 下線部④の乱は、後白河上皇が所在した院の御所の襲撃で幕を開けた。

この御所を何というか。もっとも適切な語句を漢字3文字で答えよ。

[2] 1180年に挙兵した源頼朝は、南関東を軍事占領した。その後、1183年に源義仲が上洛して平家が都落ちすると、後白河法皇に迫って東海道と  の軍事指揮権を認めさせた。これによって、頼朝は反乱軍の首領から国家の軍事警察権の一部を担う存在として、朝廷から認められたことになった。それとともに、関東地方に本拠をおく幕府と京都の朝廷とが併存するという、鎌倉時代の公武二元体制が成立するきっかけともなる。

1185年に平家が滅亡すると、頼朝は弟の義経と対立し、義経は後白河法皇に迫って頼朝追討の宣旨を出させた。しかし、頼朝はこれに強く抗議し、逆に義経の追討を法皇に認めさせた。また、頼朝は朝廷の人事に介入するとともに、<sup>⑤</sup>全国的な軍事的支配の体制を築いていった。そして、1189年に義経を殺害した  を討伐して、その勢力を東北地方にまで拡大するとともに、翌年上洛して後白河法皇に面会し、権大納言兼右近衛大将に任じられた。

頼朝の死後、あとを継いだ2代將軍頼家、3代將軍実朝はいずれも非業の最期をとげ、源氏將軍が絶えた。そのため、幕府は関白  の子を下向させ、承久の乱のあと、4代將軍の地位につけた。

承久の乱後、朝廷はさまざまなかたちで幕府の介入を受けることになるが、その最大のものが皇位継承への介入である。四条天皇が跡継ぎとなる子がなく早世したため、朝廷は順徳上皇の皇子の即位をはかったが、幕府はそれに反対し、強引に後嵯峨天皇を即位させた。そのため、後嵯峨天皇は幕府に遠慮して以後の皇位継承に関して自らの意志をはっきりさせなかったため、それが大覚寺統と持明院統の対立、さらに南北朝の内乱のきっかけとなった。

(h) 空欄  にあてはまる、もっとも適切な語句を下から一つ選び、記号で答えよ。

- ㉞ 東山道            ㉟ 北陸道            ㊱ 南海道            ㊲ 山陽道

(i) 下線部⑤に関連して、頼朝の要請に応じて任命された、親幕府の公家10名の役職を何というか。もっとも適切な語句を漢字2文字で答えよ。

(j) 空欄  にあてはまる、もっとも適切な人名を答えよ。

(k) 空欄  にあてはまる、もっとも適切な人名を答えよ。

(l) 下線部⑥の上皇が著した有職故実書を何というか。もっとも適切な書名を答えよ。

(m) 下線部⑦に関連して、大覚寺統と持明院統の対立および南北朝の内乱の説明として、もっとも適切なものを下から一つ選び、記号で答えよ。

- ㉞ 両統の対立がおこると、北条時頼は両統迭立の方針を即座に示した。  
㉟ 持明院統から即位した後醍醐天皇は、院政を廃し天皇親政を進めた。  
㊱ 足利尊氏と直義があいついで南朝と和睦し、事態を紛糾させた。  
㊲ 北朝の後小松天皇が皇位を放棄し、南朝に合流して対立が解消した。

[3] 足利義満以降の朝廷は、ほとんど政治権力を失ってしまう。ただし、室町中期の太政大臣・関白  のように、思想や文化の面で政治にも大きな影響を与える人物も出ている。その後、戦国の争乱のなかで天皇の命令書が一定の効力をもつようになり、その權威の浮上のきざしも見られた。

豊臣秀吉は、京都を重視し、朝廷の權威を徹底的に利用した。天皇も、徳川家康・秀忠を征夷大將軍に任命して徳川幕府の安定にも寄与するなど、朝廷は衰微を脱して復活の糸口をつかんだ。しかし、後水尾天皇は、幕府が1615年に出した朝廷の統制法によってその権能を縛られ、さらに高僧への袈裟・法服許可をめぐる幕府と対立した  事件などによって、不本意な退位を余儀なくされた。

江戸後期になると、1758年  が公家に神書・儒書や武技を教えて処罰された宝暦事件、山県大弐らが甲府・江戸城攻撃の軍略を述べた罪で死罪となった1767年の明和事件なども起きた。1789年に  天皇が、皇位に就いたことがない父に「太上天皇」の称号を贈ろうとして幕府の反対にあった尊号一件も起きた。こうしたなかで水戸藩を中心に尊王論が高まり、天皇を幕府より上位におく思想が広まっていった。

(n) 空欄  の人物について述べた文章として、適切でないものを下から一つ選び、記号で答えよ。

- ㉔ 將軍足利義尚に対して、政治の心構えを説いた『樵談治要』を著した。
- ㉕ 『源氏物語』の注釈書として、『花鳥余情』を著した。
- ㉖ 朝廷の年中行事について述べた有職故実書『公事根源』を著した。
- ㉗ 当時流行した連歌の規則書として、『応安新式』を著した。

(o) 下線部⑧に関連して、豊臣秀吉の政策の説明として、もっとも適切なものを下から一つ選び、記号で答えよ。

- 二条城に後陽成天皇を招き、諸大名に忠誠を誓わせた。
- ㉙ 將軍職を甥の秀次に譲り、太閤となった。
- ㉚ 京都に御土居という防御施設をつくり、市街地を改造した。
- ㉛ 京都を直轄地とし、京都所司代をおいて支配した。

(p) 下線部⑨の統制法を起草した、家康の顧問を務めた禅僧は誰か。もっとも適切な人名を漢字5文字で答えよ。

(q) 空欄  にあてはまる、もっとも適切な語句を答えよ。

(r) 空欄  の人物の思想的基盤となったのは、江戸前期に儒学者により創始された儒教的性格の強い神道の思想であるが、この神道を何というか。

(s) 空欄  にあてはまる、もっとも適切な天皇名を答えよ。

(t) 下線部⑩に関連して、後期水戸学の代表的著作とされる『新論』を著した学者は誰か。もっとも適切な人名を答えよ。